

てをっなGo。

NPO法施行20周年特別号



1999.8 高知県ボランティア・NPOセンター開設



2002.11 全国障害者スポーツ大会南催



2013.11 第22回全国ボランティアフェスティバル高知

CONTENTS

Awesome NPO

NPO法人高知市こども劇場

NPO法人NPO砂浜美術館

NPO法人安芸老人問題研究会

NPO法20年の歩み

NPO法施行20周年記念プロジェクト

もうすぐ活動50年!

NPO法人 高知市こども劇場

活動概要
みるあそぶ

「ライブな舞台を観る」「仲間と一緒に遊ぶ」

子育てで家庭に寄り添って「地域や仲間」「家族の絆」「おとなと子どもが互いを尊重し育ち合うこと」を大切にする活動をしています。
いつでもだれでも会員になれます。

●これまでのあゆみ

- 活動開始(1971年) 「高知こども劇場」発足
- 13年目(1984年) 高知市内で5つのこども劇場に分割。会員3000人以上に。
- 25年目(1996年) 高知県文化賞受賞
創作劇「My Love Letter」を劇団と共同制作

NPO法成立

- 27年目(1998年) 組織再編。高知市こども劇場へ一本化
- 30年目(2001年) 30周年記念アンケート『いまどきのキッズライブ in 土佐』*1実施
- 34年目(2005年) NPO法人格取得
時代の変化で会員が20年前の半分以下になる。
- 36年目(2007年) 高知けいばの赤岡修次騎手による、観劇招待寄付が始まる。
その後、賛同者も増え、これまでの招待者延べ700名!
- 41年目(2012年) 『土佐チル』*2スタート
- 47年目(2018年) 『みんなあ育ち合おう部』スタート
- 48年目(2019年) 50周年フェスティバルにむけ準備中♪

*1 こどもの実態調査アンケート
*2 『土佐っ子チルドレン』の略
子どもたちの自主活動を見せていく出前舞台





夏の恒例行事「縁日」



毎年のお楽しみ♪ お正月遊び

演者さんとのふれあいはサイコー!



出会い

今月の坂クマさん



「今月の坂クマさん」は、高知市子ども劇場のホームページで随時更新中!



一期一会

家でも
学校でもない
第三の場所!



みらいへの
メッセージ

10年先の子ども劇場

地域での活動を大切にしながら、この先、3世代、4世代とつながって参加できるよう続けていきたいです。

10年先のNPO活動

ボランティア活動は自主的なもの。心の中から湧きあがってくるのが活動につながればと思います。

Information

正会員 入会金 300円 会費 小学生～おとな1,500円/月 4歳～就学前1,200円/月
※年4回の舞台鑑賞会(例会)も含まれます。
※サニーマートのお買物券も会費に使えます
保険料100円/年 その他賛助会員制度、企業協賛支援制度などもあります。

教えて理事さん!

- Q 「地域活動までなかなか時間が取れないけれど、生の舞台を子どもと楽しみたい」という場合や、おとなや大学生一人だけでも会員になれますか?
- A もちろんです! それぞれの関わり方で居心地のよい場所であればと思います。

● 特定非営利活動法人 高知市子ども劇場
高知市北本町1-5-8
TEL 088-879-7160 FAX 088-879-7161
<http://www.npogk Kochi.com>

私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。

NPO法人NPO砂浜美術館



施設としての美術館が存在するわけではなく、そこにあるのは、長さ4キロメートルに広がる白い砂浜や背後に並ぶ松林。ものの見方を変え、これらを作品ととらえるといろいろな発想がわいてきます。

美しい「松原」、沖に見える「くじら」、卵を産みにくる「海亀」、砂浜をはだして走り、貝殻を探す「子どもたち」など、普段見慣れた風景も美術館の作品となります。

砂浜美術館の構想は1989年に生まれました。「Tシャツアート展」の初開催に向けて、住民や地域団体、行政、町外のデザイナーなどが喧々

ホエールウォッチング



諤々と議論を重ねるなかで、ものの見方を少し変えることによって、地域資源に新しい価値を生み出すという砂浜美術館の考え方が生まれたのだそうです。そして、様々な取り組みを通じて、「人と自然のつきあい方」を考えるきっかけをつくってきました。

砂浜美術館は2003年に地域の他の3団体と窓口を一つにしてNPO法人NPO砂浜美術館となりました。次第に事業や組織が拡大してくるなかで、2011年に組織を見直す機会が訪れました。その過程で、地域の人からは「Tシャツアート展」のようなイベントだけでなく、一年を通じた地域の経済活動にも期待されていることに気

づき、新たに旅行業やスポーツツーリズム、WEBショップなども手掛けていきました。活動分野が広がっても、それぞれの活動に砂浜美術館の考え方が貫かれています。

また、近年では地域の子供達の学習にも力を入れています。「Tシャツアート展」では子供達の作品づくりやひらひらの風景を通じて砂浜美術館の考え方を学んでもらい、地域の魅力にも気づいてもらっています。また、モンゴルやトンガなど海外での「Tシャツアート展」の開催を、国際理解教育や国際交流にもつなげています。

この子供達の学習の中でも「『ものを見方を変える』とマイナスもプラスになる」という考え方を伝えていっています。



2009年、初めてTシャツアート展が海を越え、モンゴルでひらひらして10年目。今年もTシャツは砂浜から世界へ旅をします。

みらいへの
メッセージ

10年先の砂浜美術館

砂浜美術館の考え方を大切に共感の輪を広げながら、砂浜美術館の可能性を広げることができればと考えています。その一つとして、新たにデザイン室を創設しました。チラシやWEBページなど広報媒体のデザインだけでなく砂浜美術館の考え方を広める幅広い意味での「デザイン」を行っていく予定です。これからも砂浜美術館の活動に期待してください。

黒潮町の小学校による『Tシャツアート展参加を通じた国際教育プログラム』

● 特定非営利活動法人 NPO砂浜美術館

高知県幡多郡黒潮町呼鞭3573-5 ビオスおおがた情報館内
TEL 0880-43-4915 (9:00~17:00) FAX 0880-43-1527
URL <http://www.sunabi.com/>

住み慣れた地域で安心して暮らせるために

NPO法人 安芸老人問題研究会

託老所「わすれな草」

わすれな草の花言葉：わたしをわすれないで
託老所 わすれな草：親を忘れるな、年寄りを忘れるな



(左) 初田事務長 (右) 長澤理事長

安芸老人問題研究会は、1986年12月に認知症になった高齢者とその家族の援助と福祉の向上をはかることを目的に結成されました。

当時認知症への理解は低く、その家族が抱える苦悩は深刻なものでした。自分たちの力でできるところから始めようと、学習会を開催、1987年1月に月2回の電話相談を始め、ボランティアによる託老所「わすれな草」を立ち上げました。人と人との関わりを大事にし、健康な高齢者が病気や障害を抱えた高齢者を温かく迎える場となりました。

ボランティアのほとんどが70～80歳代の高齢者でした。一方では、資金を確保するために市民の協力による古紙回収や古着、食料の寄付、バザーを開催し、やりくりをしました。

1987年5月から週1回2～3人の認知症の高齢者を預かり、手探りで始めた託老所「わすれな草」は、同年6月には週2回、同年9月からは月曜日から金曜日が開所となり、1998年5月には毎週土曜日も開所することになっていきました。

1998年12月に施行された特定非営利活動促進法は、安芸老人問題研究会にとって「渡りに

舟」でした。介護保険が始まるこの時期にNPO法人化することで任意の団体にはない信用も得られ、また活動がひろがり、大きなメリットがありました。

託老所「わすれな草」は介護保険のスタートに合わせ、設備や運営面で一定以上の基準を満たす「基準該当居宅サービス事業所」として再出発をし、利用者は9人と増え、また、週1回のミニデイサービスも大賑わいでした。

2016年には介護保険の改正により、これまでの「基準該当」事業者から地域密着型事業所に転換しました。創設以来、ボランティア主体で運営を行ってききましたが、新しい事業所では介護保険法の運営基準により雇用契約を結んだスタッフも増え、運営を行っています。

当初は初代会長の自宅の一間を借りてスタートした託老所「わすれな草」ですが、その後に移転した民家では部屋の狭さや不便さもありませんでしたが、2010年に安芸市より介護予防拠点施設「すみれ」の施設管理業務の管理者に指定されたことでハード面の問題は解消し、このことは運営面でも大きな転機となっています。



室内には利用者による四季折々の作品が並ぶ



20周年を記念し「20年のこころの道すじ」を発行

年4回発行される機関紙を20周年と30周年に縮刷版として作成

現在も月曜日から土曜日まで週6日、1日平均7.61人の高齢者・要介護者の方に託老所「わすれな草」を利用していただきながら、高齢者問題に対する研究や広報『機関紙 わすれな草』の発行、その他にも体験学習や、実習生受け入れなども行っています。

介護や医療などの社会保障制度が後退し、高齢者が住みにくい世の中になってきています。社会保障の充実が図られ、命が守られ、心豊かに暮らせる社会が来ることを望んでいます。



10年先の安芸老人問題研究会

高齢者がいきいきと住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を目指して、託老所「わすれな草」の活動を続けていきたいです。

● 特定非営利活動法人 安芸老人問題研究会
安芸市寿町1-7 TEL & FAX 0887-35-3180

NPO法 20年の歩み

社会の変化とともに歩んできたNPO法。その20年の歴史の中では、福祉や環境、まちづくりなど様々な社会課題の解決に向けて取り組みが進むとともに、災害時には被災者や被災地の支援活動にNPOが活躍してきました。

1998年
9月

'98高知豪雨災害が発生し、ボランティア3,804人が活躍

1998年
12月

NPO法が施行

1999年
3月

高知県が社会貢献活動の支援に向けて「社会貢献活動推進支援条例」を制定

1999年
5月

高知県で第1号のNPO法人
幡多ふるさとの会（四万十市）
が誕生

1999年
8月

県内のボランティア・NPO活動の
支援拠点として高知県ボランティア・
NPOセンターが開設



NPO法
(特定非営利活動促進法)
の成立

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災では、被災地の復旧や復興に多数のボランティアが活躍しました。これを機に、ボランティアをはじめとする市民が行う、自由で主体的な多様な社会貢献活動への関心と期待が高まり、こうした活動の発展を目的に1998年に12月に成立した法律です。

この法律によりボランティア団体や市民活動団体が法人格を持ち活動することが可能になり、これまで以上に活動が広がっていきました。

高知県のNPO法人数の推移



NPO法人の数はNPO法が施行されて最初の10年間（1998年12月→2008年3月）で214法人が増加し、次の10年間（2008年4月→2018年3月）で118法人が増加しています。



2001年
9月

高知西南豪雨でボランティア
12,000人が活躍



2001年
10月

NPO法人が寄付金等の収入割合に
よって税制優遇を受けられるようになる
認定NPO法人制度（税制支援制度）が創設

2011年
3月

東日本大震災が発生し、
被災地を支援する
ボランティアやNPOが
活躍

2012年
4月

改正NPO法が施行され、
認定NPO法人制度の
要件が緩和

2012年
7月

高知県で第1号の認定NPO法人
NPO高知市民会議が誕生

2018年
7月

西日本豪雨災害が発生し、
被災地を支援する
ボランティアやNPOが活躍

2018年
12月

NPO法施行
20周年

NPO法施行20周年

第1弾

「市町村とNPOの協働で進める地域づくり研修会」を開催

市町村とNPO、組織性や活動方法で異なる2つの組織。両者の協働のあり方を考えることを目的に、2018年11月15日（木）に県立ふくし交流プラザにおいて、市町村とNPOの協働で進める地域づくり研修会を開催。行政やNPO関係者54名が参加し、それぞれの立場から意見交換を行いました。

日本NPOセンター顧問の山岡義典さんの基調講演では「時代とともにNPOの活動は変化してきているが、これからのNPOには社会や地域を変える『運動性』に期待している」と講演いただきました。

また、NPO法人暮らすさきとNPO法人しいのみからの行政との協働による地域づくりの実践報告では、「行政とNPOが地域づくりに向けて目標や目的を共有して取り組むことが大切だ」と報告いただきました。

意見交換では、参加者同士が行政とNPOの協働について話し合い、そ



れぞれの得意分野を活かした協働が大切だという意見が出されるとともに、日ごろから意見交換する場面を持つことが大切だという意見が出され、協働に向けた理解が広がりました。

実践報告



山岡義典さん



NPO法 豆知識

1998年12月に施行されて以来、現在、NPO法人数は全国で5万団体を超え、高知県でも334団体（2019年2月現在）となり、社会を支える欠かせない存在となるまで成長しました。

NPO法、いわゆる特定非営利活動促進法という長い名称も20年という時の流れで、定着しつつありますが、この法律が法案だったときには「市民活動促進法」という名称案だったそうです。この名称に込

められた思いは、地域や社会をよりよくするために活動する市民（＝主体的に社会に参加する人々）を日本社会に広げるということでした。

法律ができる過程で現在の名称は変わりましたが、この思いは法第1条に「ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進し」と記載されて残されています。



記念プロジェクト

第2弾

「こうちNPOフォーラム2018」を開催

12月1日(土)に高知市南部健康福祉センターにおいて、「こうちNPOフォーラム2018『20年の歩みとこれから～次の扉を開けてみよう～』」が開催されました。NPO関係者106名が参加し、これまでの歩みを振り返るとともにこれからのNPOの可能性について語り合いました。

フリップディスカッションでは、認定NPO法人高知こども図書館、NPO法人GIFT、高知商業高等学校生徒会など高知で活躍する3団体に出演いただき、「出会い」「つながり」「成長」「変化」をキーワードに活動の報告をしていただきました。また、コメンテーターの日本NPOセンター特別研究員の新田英理子さんからは、NPOセクターがこの20年で社会でどういう役割を果たしてきたか、加えて今注目されているSDGsについてもお話をいただきました。

午後からはファシリテーター 古瀬正也さんによる進行で「高知をもっと良くしたい!」をテーマにワールドカフェを行い、参加者同士で語り合い、未来の高知に大きな夢を描きました。

参加者からは、「解決のために話し合う楽しさがわかった」「様々な意見が聞いて良かった。充実した一日でした」など、次の20年に向けた最初の一步となる意見が多く出ました。



2013.3
ファンレイジング
ジャパン in こうち 開催



NPOの資金調達を
考えるセミナーなど
"寄付"を学んだ1日!



2012.8
こうちボランティア
フェスティバル 開催



ポラフェスと
同時開催のボランティア
ガイダンスにもたくさんの
参加が!



2014.7 ナツボラ 開始



夏のボランティア体験
キャンペーン「ナツボラ」の
学生や社会人などがいろいろな
ボランティアにチャレンジ
しています!

